

工業技術研究推進会議
食品技術部会議事録

平成14年10月30日(水)

総評

〔 時間の関係から、代表してお二人の
委員から総評をいただきました。 〕

A委員

各研究員には厳しいことを言いましたが、研究員が悪いわけではありません。国からの要望でやる場合には、難しいこともあります。研究はテーマで7～8割決まってしまうものですから、あしからず了承したいと思います。化学屋の立場から言わせていただければ「工業技術センター」なので民間と異なること、具体的には「機能性」や「成分」を重点的に取り組んでいただきたいと思います。また、工業技術センターには化学部門もありますし、近くには岩手大学もあるので連携をもう少し進めてはどうでしょうか。全体的には、県も変わって、所長も変わって、コストや最終製品を見ているようなので、今後良くなるだろうと思います。

B委員

総評というより感想ですが、工業技術センターが岩手らしいものを岩手に根ざして特色を出していこうとしていることがよく理解できました。今後も地に足のついた研究を行って、岩手の産業を技術の面から支えていって欲しいと思います。センターのおかげで製品ができたという事例が多くなることを望んでいますし、また、兆しが見えるので、益々発展していくだろうと思います。